

# 電子処方箋等に関する調査報告書

---

デジタル推進委員会  
2023年4月

- 目的：電子処方箋等への対応状況や計画、普及に向けた課題を把握すること
- 内容：問1.電子処方箋等への対応状況について 問2.方針・計画  
問3.課題と期待 問4.ICTを活用した各種サービス
- 対象：NPhA正会員
- 方法：WEBアンケート 1社1回答 ※グループで1回答でも可
- 回答期間：2023年3月7日（火）～2023年3月31日（金）
- 回答数：101社、10,590薬局（回答率：57.7%）\*
- 実施主体：一般社団法人 日本保険薬局協会 デジタル推進委員会

## 調査結果 Summary

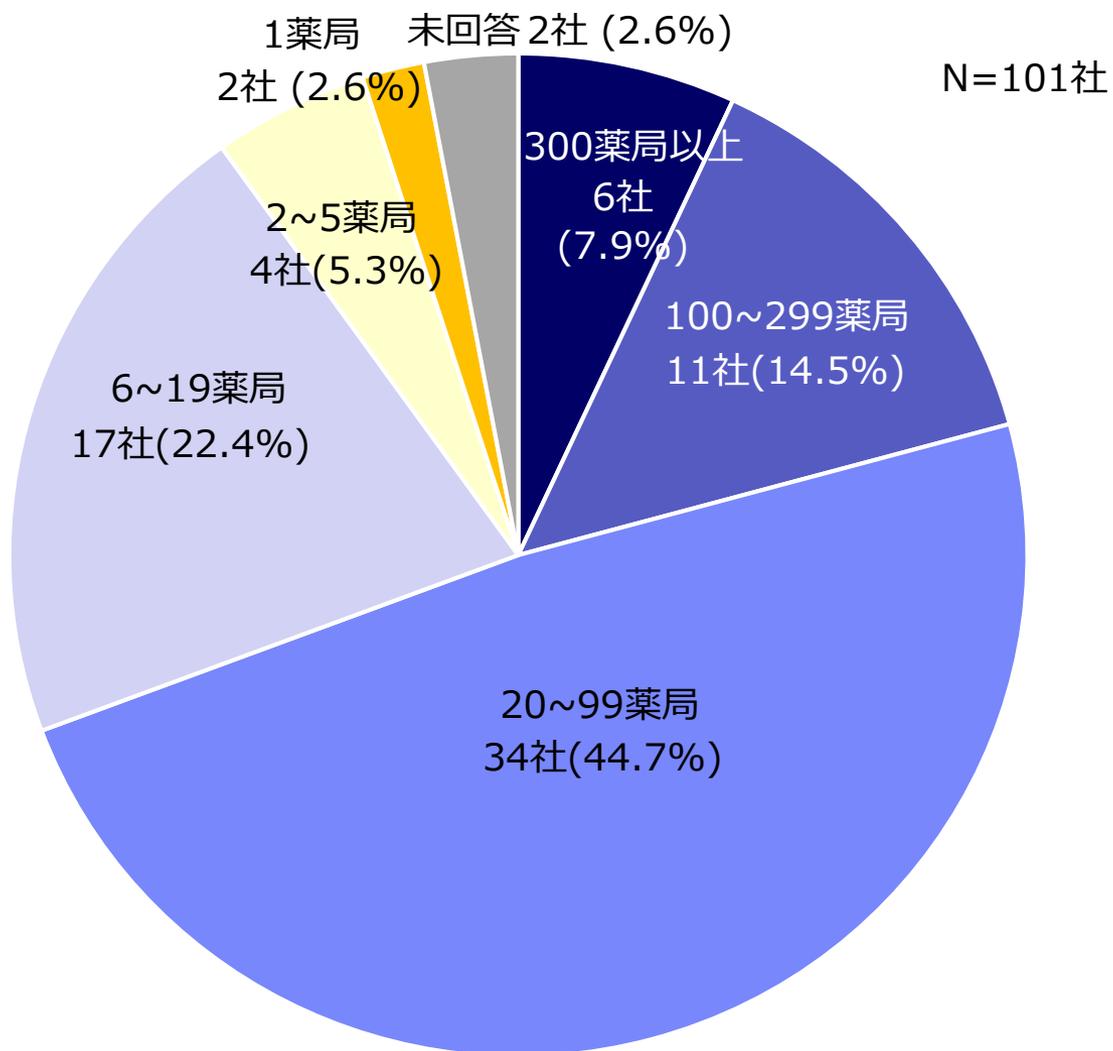
オンライン資格確認システム（以下、「オン資」）が稼働している薬局は95.5%、電子処方箋の受付を開始している薬局は10.7%であり、計画としては74.3%の企業において2024年3月末までに順次運用を開始すると回答された。

また、課題としては「導入・運用コスト」「システム改修及び設置作業」「HPKIカードの申請と運用」「医療機関の意向」「患者の理解」「業務フローの複雑化」「システム、NW障害時の対応」の順で回答が多かった。中でも「医療機関の意向」に関して、電子処方箋発行の予定、意向がある医療機関は8.3%という結果であり、今後、好事例の蓄積、共有等、業界全体への働きかけが重要となってくると考えられる。

本調査時点において、電子処方箋の受付実績があるのは19薬局と限定的であったが、情報連携の質と効率性の向上に寄与する好事例も報告されており、今後の普及が期待される。

▶\*回答率分母：18,351薬局（2023年1月31日時点,NPhA会員ページより）

## 回答企業の薬局数

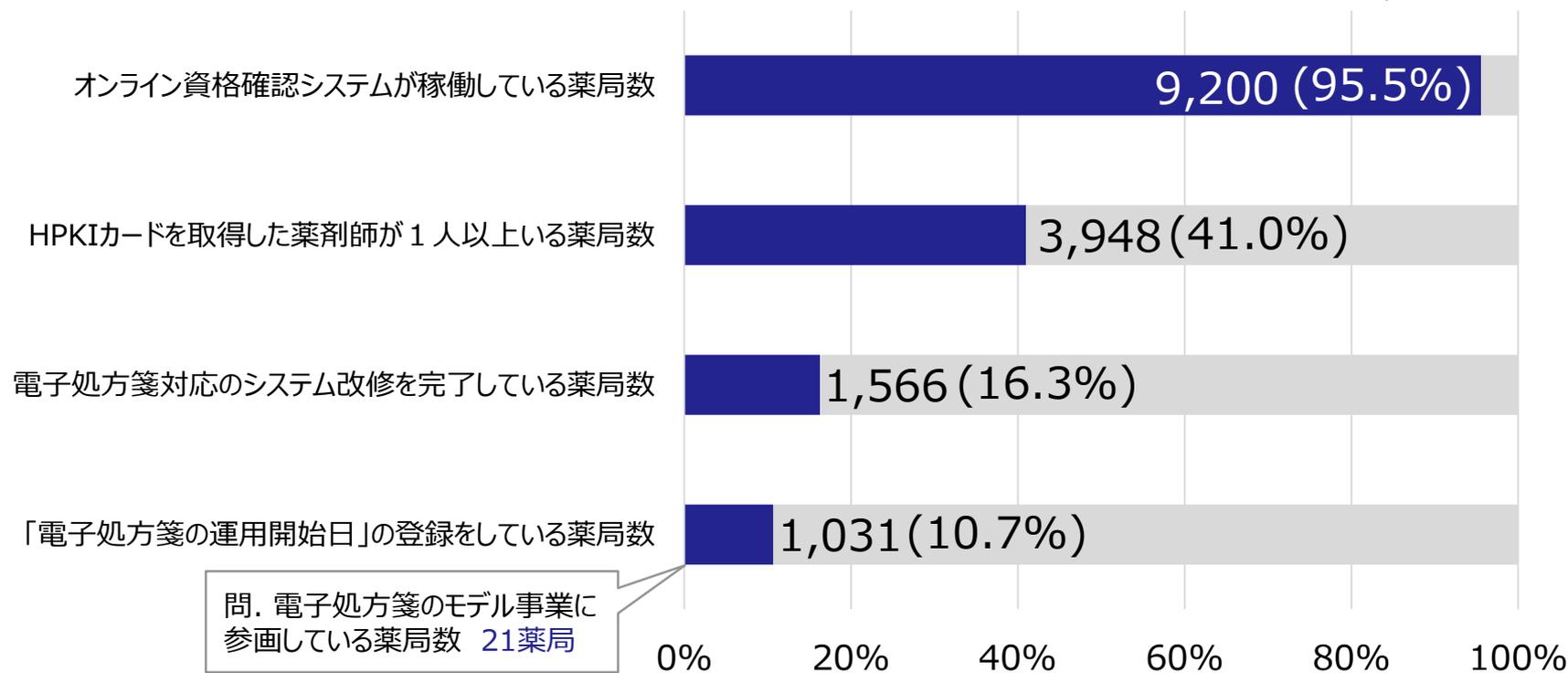


## 導入進捗及び実績

オンライン資格確認システムが稼働している薬局は95.5%、電子処方箋の受付を開始している薬局は10.7%であり、電子処方箋の受付実績があるのは19薬局であった。

問. 回答時点における電子処方箋等への対応状況について教えてください。

N=96社 (9,631薬局)

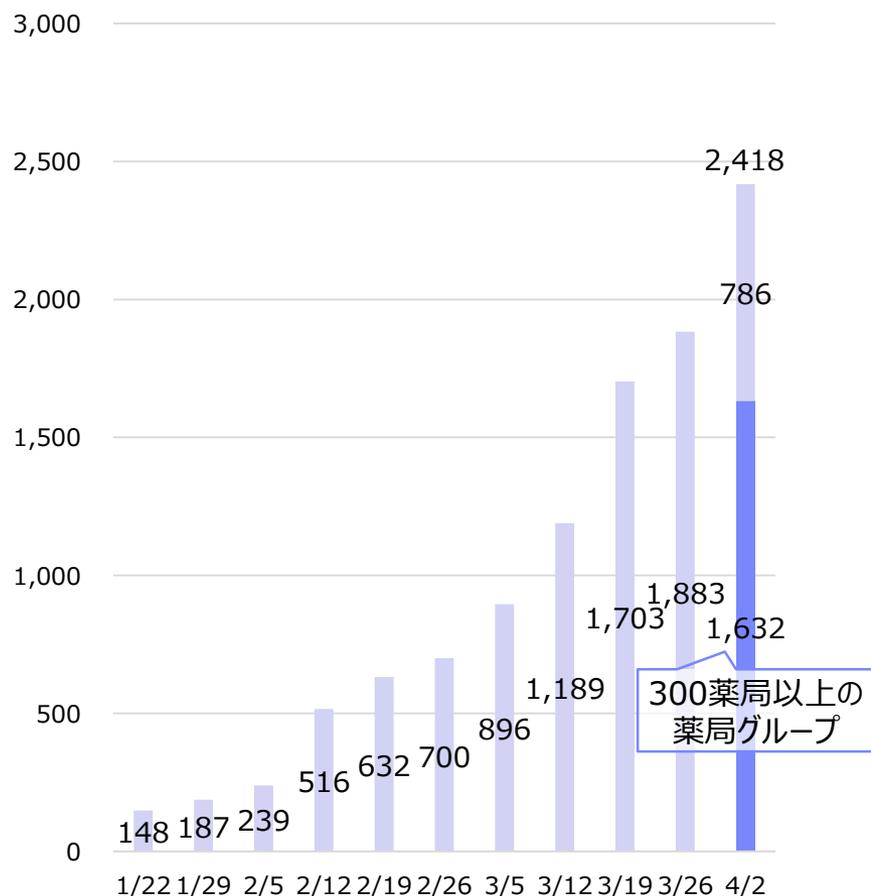


電子処方箋の受付実績あり 19薬局

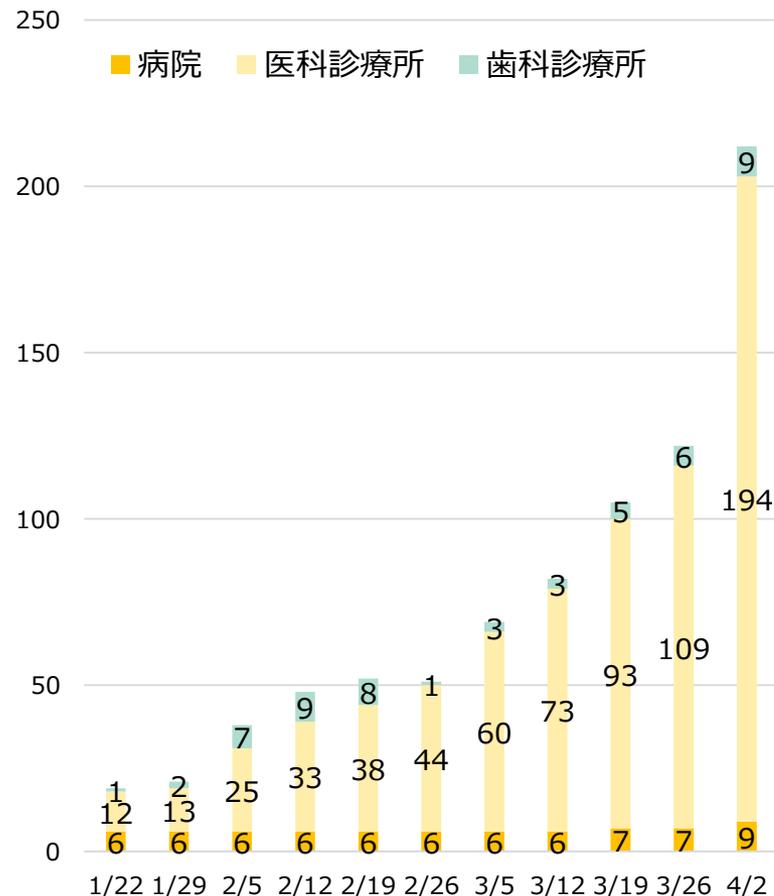
# 参考) 電子処方箋対応の医療機関・薬局 (4/2時点)

厚生労働省の公表によると、4/2時点で対応医療機関数は212、対応薬局数は2,418であり、対応薬局のうちNPhA調べでは「300薬局以上の薬局グループ所属」は1,632薬局(67.5%)、「NPhA加盟会社所属」は1,870薬局(77.3%)であった。

## ■ 対応薬局数



## ■ 対応医療機関数



▶ 厚生労働省公表 電子処方箋利用 参加医療機関・薬局リスト (4/2時点) より ▶ 対応数の推移は業界紙より

▶ 4/2時点対応薬局数のうちの「300薬局以上の薬局グループ」及び「NPhA加盟会社」に所属する薬局数はNPhA調べ

## 電子処方箋に係る好事例

電子処方箋を実装している医療機関、薬局が少ないことから好事例はまだ少ないものの、調剤結果の共有と、医師のコメント登録機能の活用が進むことで、情報連携の質と効率性が向上すると期待できる。

問. 電子処方箋に係る薬局現場での好事例やポジティブなエピソードがあれば教えてください。

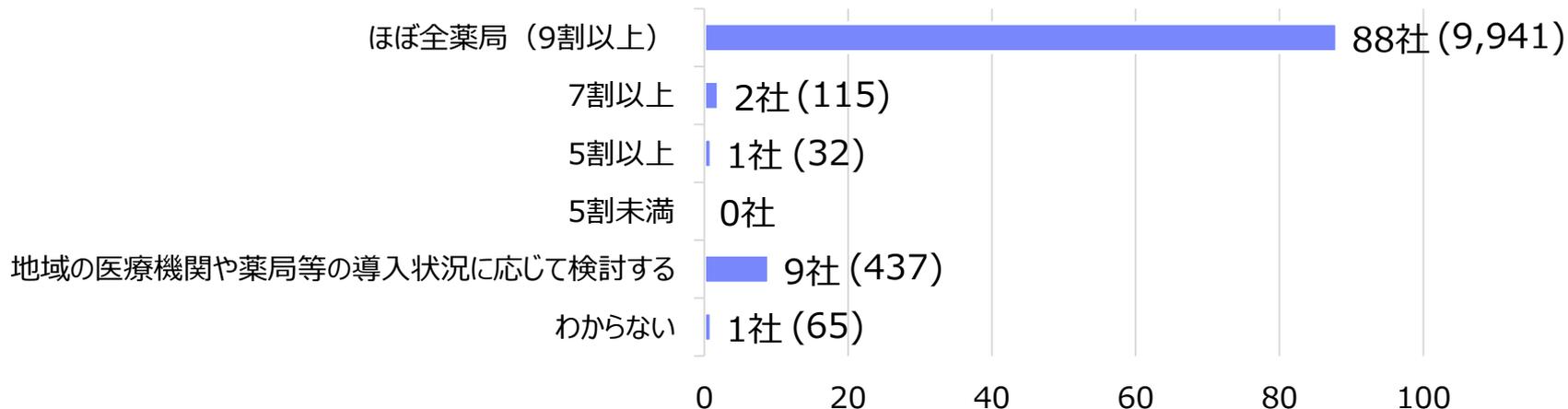
- 電子処方箋に係る実証を通じて、主応需先医療機関とかなり密な連携が取れている。
- 電子処方箋に対応できるという点から患者様に当薬局を選んでいただいたことがある。
- 医師が処方設計の際に重複チェックを確認し、重複であってもその必要性があって処方している旨を、医師コメントに記載しているケースがあり、疑義照会が回避できた事例があった。
- 併用薬情報などが医院と共有でき、より精度の高い医療の提供が可能。
- 患者様からはお問い合わせをよくいただいています。

# 電子処方箋対応の計画

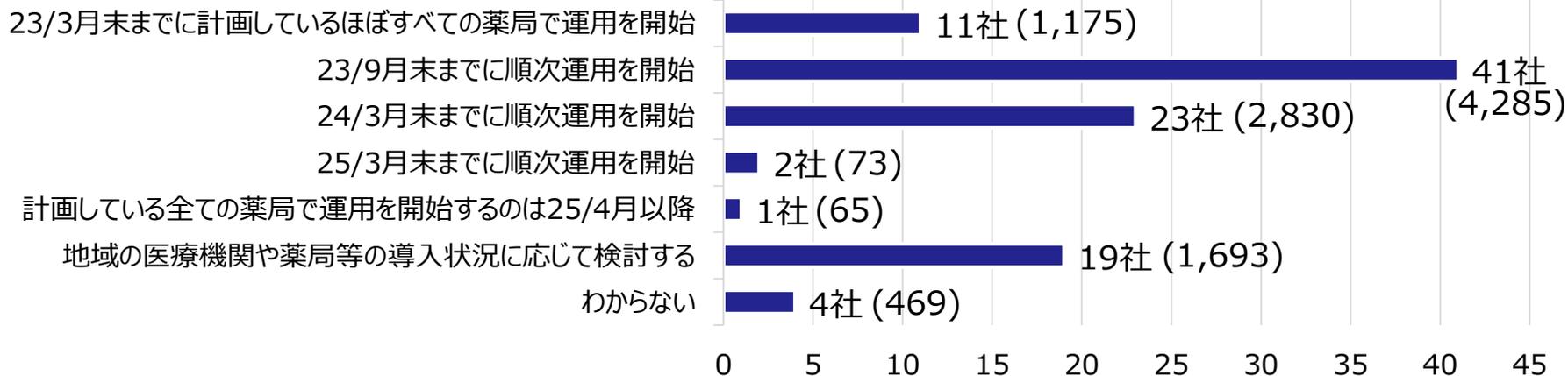
88社（87.1%）において、将来的にほぼ全薬局において電子処方箋に対応すると回答、また、75社（74.3%）が2024年3月末までに順次運用を開始すると回答された。

## ■ 将来的な電子処方箋の対応計画

N=101社(10,590薬局)



## ■ 電子処方箋対応整備計画のスピード感



## 導入状況と計画

電子処方箋対応について速やかに整備している、もしくは計画を立てているといった回答が多く見られた。一方で、HPKIカードの未着やベンダーの対応待ちにより計画が遅延している状況も散見された。

問. 回答時点での導入状況及び計画について可能な範囲で詳細を教えてください。

N=57社

- 現在は323薬局で稼働しており、今後はHPKIカードが届いている薬局に優先的に導入していく。レセコンベンダーの対応次第ではあるが遅くとも2023年9月までにはほぼ全薬局において電子処方箋の受付体制を整える。
- 23年末までに都道府県ごとに一斉開始予定。HPKIカードについては所有薬剤師が全薬局に必ず1名は在籍している体制にすでになっている。
- 23/3月以降に順次導入、23年内に25薬局に導入予定
- 基本的に1/26に間に合わせたかったが、ベンダー機器納品遅れ、1/29までにHPKIカードがある17店舗のみ導入完了。2/13から運用開始、残りの2店舗はカード届き次第対応する
- 栃木県内の医療機関が電子処方箋を開始する前に、全店舗で体制を作れるように計画。3月7日時点で47店舗中、27店舗で導入済み。残りも23/3月中に導入が行えるように、レセコンベンダー様と相談しながら導入を進める。

### (HPKIカード未着、ベンダーの対応待ちで計画遅延)

- 計画では23/1月スタート同時に稼働できる体制を目指していたが、現時点でHPKIカードが半数の店舗で未着、ベンダー側の対応が未定の状況では何もできない。
- レセコン会社より、設定作業ができるのが23/4月以降と言われているため、レセコン会社の準備が整い次第、全店で導入予定。
- HPKIカードは全薬局で2名以上保持者がいるように申請を行っている。また、レセコンと電子薬歴で別メーカーを採用している為、両者の対応待ち。現状の見込みでは23/5月以降が最短導入予定見込みとなっている。

### (周囲の医療機関の状況に応じて導入)

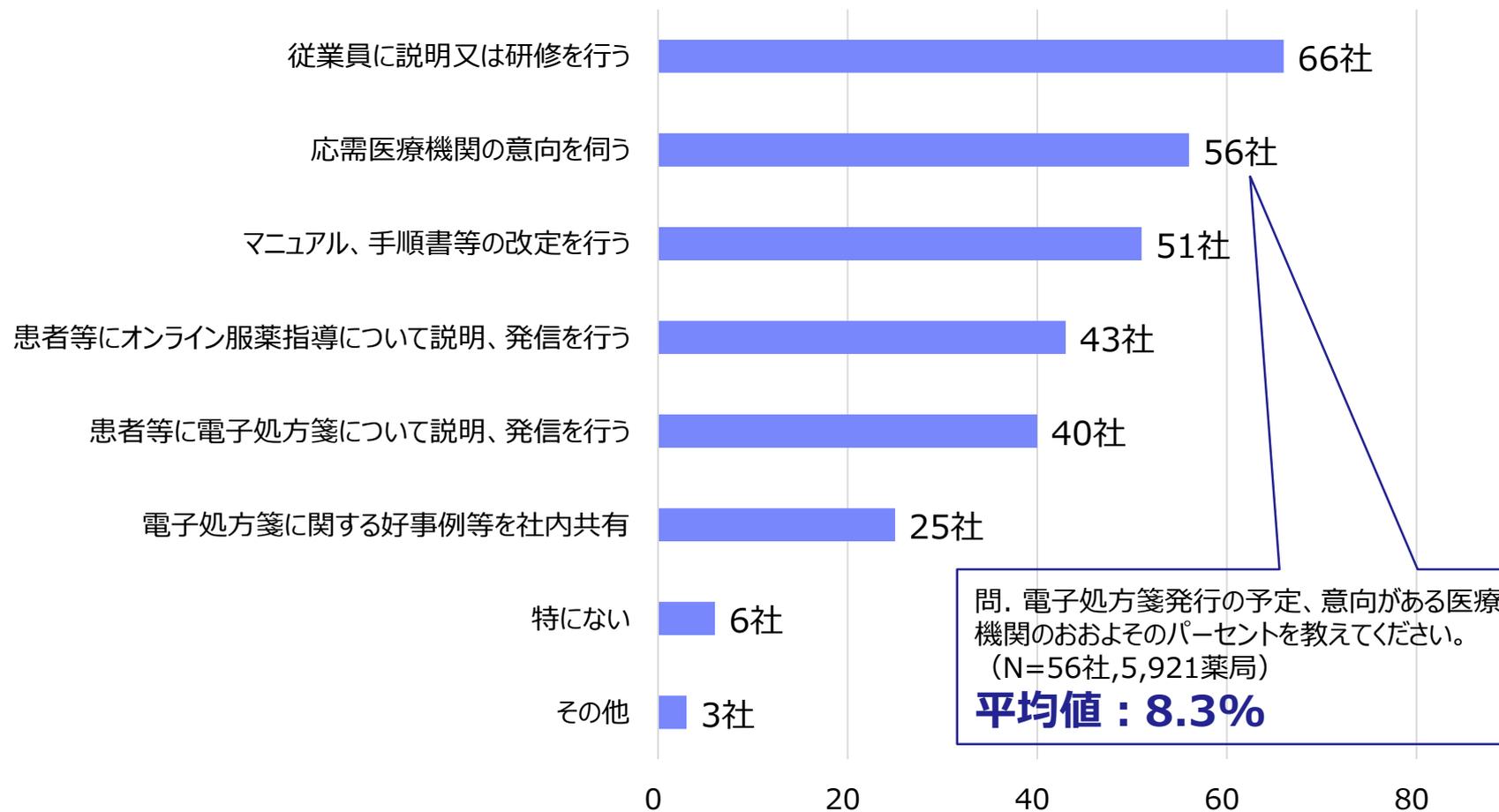
- 23年度中に全店舗運用開始の方針で、周囲の医療機関の状況も考慮し導入店舗を選定していく予定。
- 周囲の医療機関の状況を考え、将来的には対応していく予定。
- 周囲の医療機関の導入よりも先に導入できるよう準備
- ベンダーの準備、HPKIカードの準備などが整い次第、周囲の医療機関の電子処方箋発行状況に応じて優先順位を決めて導入を検討したい

# 実施施策

すでに多くの企業において従業員への説明やマニュアルの改定等、運用体制整備が進められていた。また、薬局から医療機関に電子処方箋発行の予定、意向を伺った際に、予定や意向があったのは8.3%であった。

問. 電子処方箋に係る実施施策について教えてください。（複数回答可）

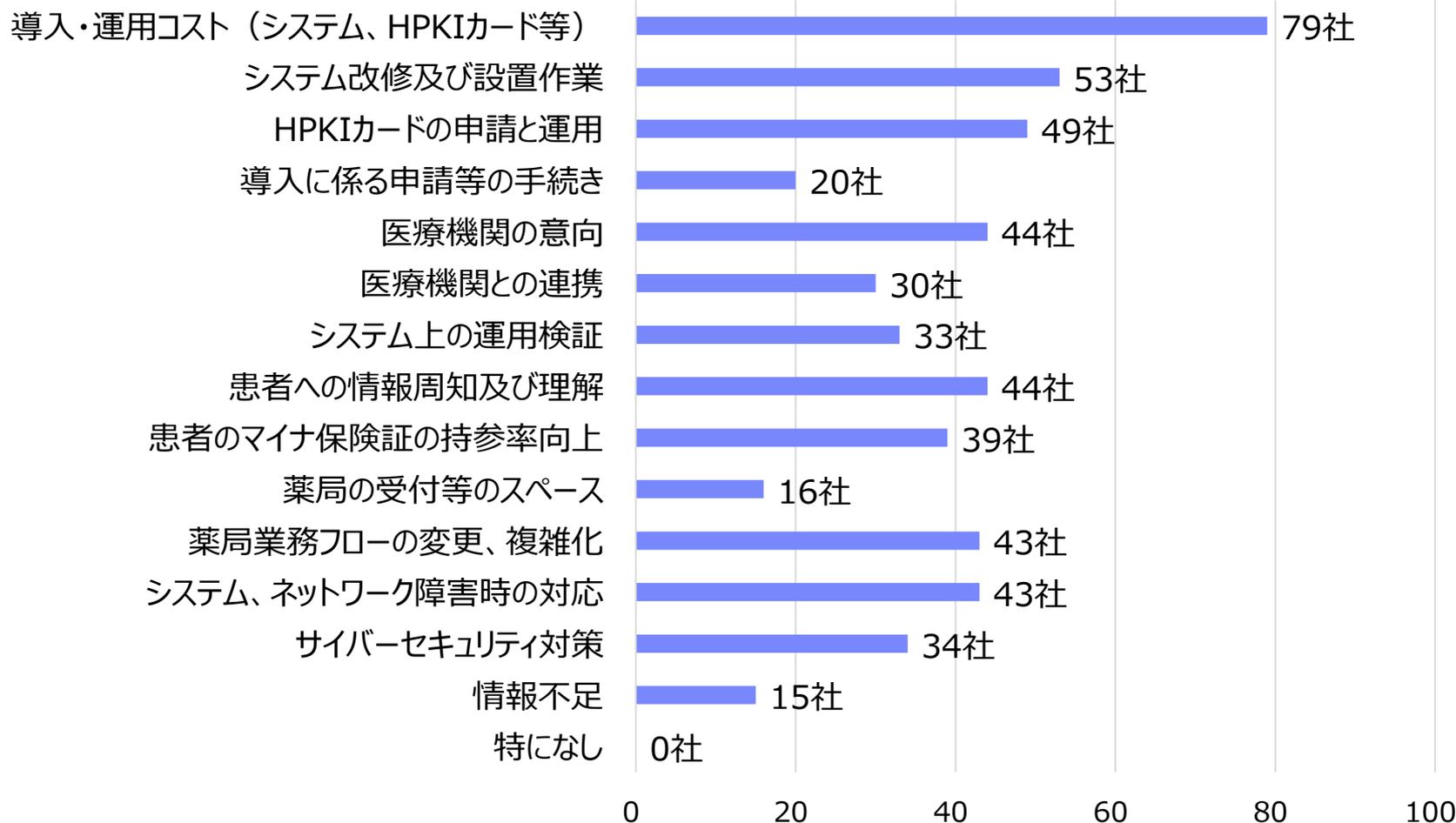
N=101社



# 課題

課題については、「導入・運用コスト」「システム改修及び設置作業」「HPKIカードの申請と運用」「医療機関の意向」「患者の理解」「業務フローの複雑化」「システム、NW障害時の対応」の順で回答が多かった。

問. オン資、及び電子処方箋の対応を開始するうえでの課題を教えてください。（最大5つまで選択可）N=101社



## 課題（フリーコメント）

導入、運用にかかるコストに関するコメントだけでなく、過渡期における業務の複雑化、システム対応における不安等、電子処方箋が普及することで解決される課題や、今後、業界全体で検討するべき課題も出てきている。

問. 選択肢以外に課題があれば具体的に教えてください。

N=27社

### （コスト面での課題）

- ランニングコストがかかりすぎる。導入費用の補助も少ない。
- 継続使用で毎月の保守料金もかかる上に導入費用の補助も少なく、金銭面でかなりの負担と思います。
- 補助金の申請が複雑。

### （運用面における課題）

- 紙と電子の併用は運用を複雑化する。・お試し電子処方箋があれば一連の流れが確認できて良いと思う。
- 普及の過渡期は業務が複雑化し逆に印刷物も増える。・最終的にペーパーレスになるとは思えない。
- 業務手順等について、全てのスタッフに周知徹底することが課題。
- 紙の処方箋がないため鑑査時の確認方法について検討が必要。
- 電子処方箋のデータだけでは調剤ができないので、紙に印刷する業務が発生し業務が増えてしまう。紙の処方箋に引換券番号を印刷したものを今後の処方箋とし、電子処方箋になったからといって紙の処方箋はなくさない方が良い。紙の処方箋がないとシステムトラブル等で電子処方箋を受信できない状況となった場合、調剤できなくなる。

### （システム面での課題）

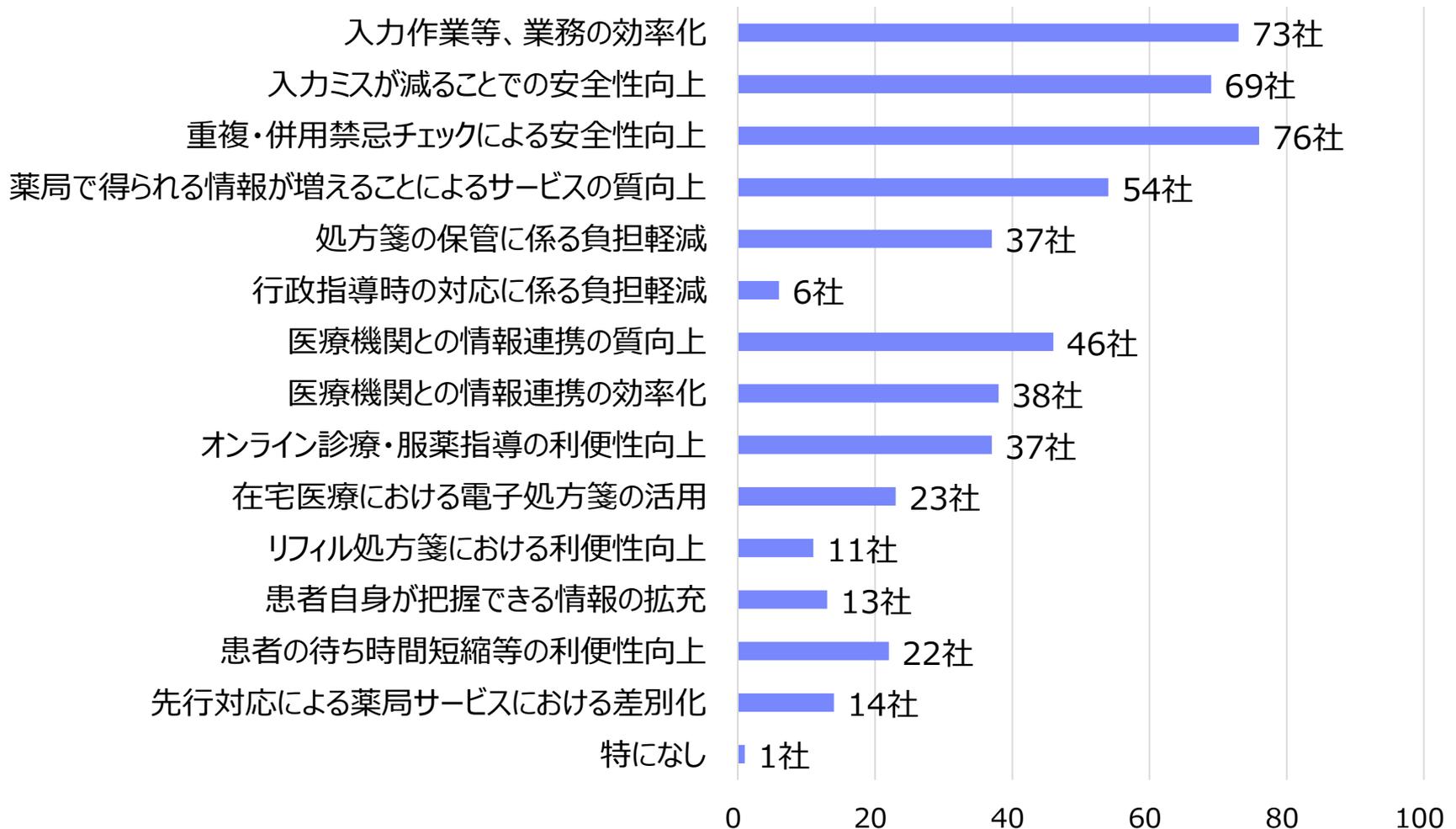
- 電子処方箋データのレセコンへの取り込み精度が100%にならない。
- 手作業が発生することによる煩雑さとミスリスク（用法マスタとの紐付けが不完全）。
- 得られる情報が増えるのは良いことだが情報過多となり薬剤師による情報の確認負担も増大するため、情報をどのように系統的に統合、処理するかが課題である。
- エラーが起きた際に、現在の状態、エラーの原因がわからず、対処方法の把握が容易ではないケースがある。
- レセコンベンダーのシステムバージョンアップ体制が整っていない（人員・スケジュール）
- レセコンの処理スピード低下。・電子薬歴簿との連動。

# 期待

期待に関しては、「重複・併用禁忌チェック」「業務の効率化」「入力ミス減少」「サービスの質向上」「医療機関との情報連携の質向上」の順で回答が多かった。

問. オン資、及び電子処方箋に関して期待していることを教えてください。(最大5つまで選択可)

N=101社



## 期待（フリーコメント）

過渡期は業務が複雑化すること、また、積極的に導入を推進している企業からは、すでに運用コストも発生していることから、電子処方箋を速やかに普及させるための政策に期待するコメントが複数見られた。

問. 選択肢以外に期待していることがあれば具体的に教えてください。また、要望等があれば教えてください。 N=15社

### （電子処方箋普及のための政策）

- 医療機関側の導入を早期に進めていただきたい。
- 導入・運用に関して、いかなる例外もなしにしていきたい。
- 過渡期は業務が複雑化し運用コストもかかると想定しているので、医療機関側がスムーズに発行できるような政策などを期待。
- 導入・運用コストが高すぎるので一時金ではなく永続的に調剤報酬で手当てして欲しい。1枚1桁前半の点数ではシステムを維持できない。
- 電子お薬手帳におけるPHRの普及、診療報酬上のインセンティブ。
- 標準用法マスタを充実させてその使用を徹底させるような施策が必要。

### （対応範囲・機能の拡張）

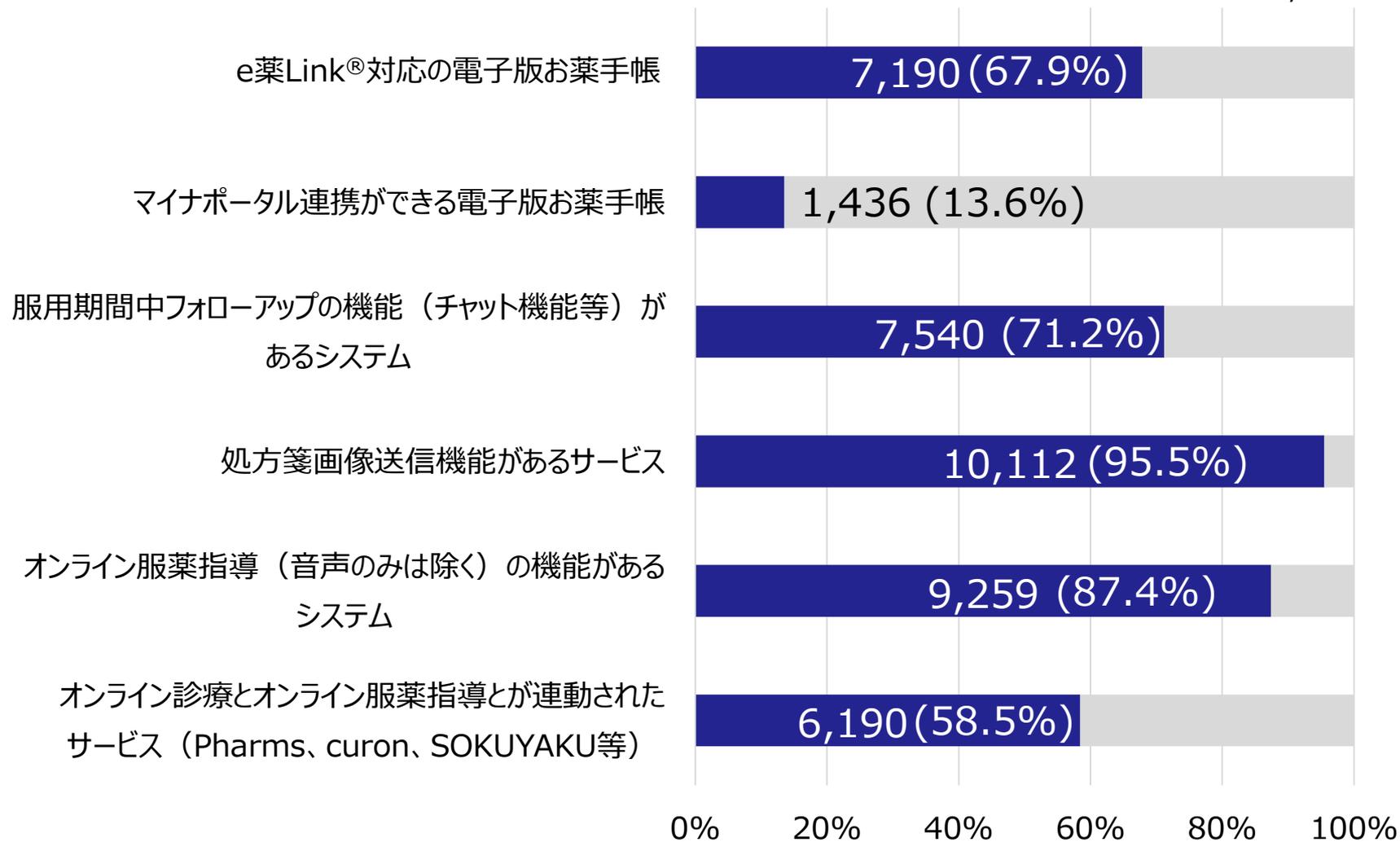
- 生保、公費、労災、リフィルにも対応してもらいたい。
- 偽造処方箋、不正入手などの発見・抑止に期待。
- トレーシングレポートをオンライン資格確認等システムの基盤において電子的にやり取りができるようになると効果的、かつ、効率的な医療連携につながると考える。

## 各種サービスの導入状況

処方箋画像送信サービスは95.5%、オンライン服薬指導は87.4%、電子版お薬手帳は67.9%と、ICTを活用したサービスの導入は進んでおり、電子処方箋の普及はこれらのサービスにも影響を与えるものと推察する。

問. ICTを活用した各種サービスの導入状況について教えてください。

N=10,590薬局



## ICTを活用したサービスに関する考え、意見

ICTを活用したサービス拡充に対して意欲的なコメントがあった、一方で、費用対効果に係る課題や、医療の質の低下、不正等を抑止する規制の必要性についてのコメントもあげられた。

問. 今後のICTを活用したサービス拡充に関してお考え、ご意見等があれば教えてください。 N=19社

- 巨大なプラットフォームの参画への対応と対策の検討が必要である。オンライン診療のみでお薬が郵送されてくるサービスは規制するべき。オンライン診療や服薬指導によって利便性が向上することは良いことであるが、一方で、簡便であることからの多頻度受診による医療費高騰、医療の質の低下、不正等を抑止する規制の在り方や、監視、指導する体制についても検討が必要ではないか。
- オンライン服薬指導に関しては早急に整備の必要性を感じている。ただ、それぞれのサービスの内容に違いがあり、選定に迷うのが現実。可能であれば統一したものを開発してもらいたい。
- 業務効率化、薬局外での活動の充実とコメディカルとのコミュニケーション強化。
- 診療情報や薬局指導（介入内容）等がデジタルで蓄積されることにより患者に有用な新たなエビデンスを示せる。
- 薬剤師が何らかの形でプログラム医療機器(SaMD)を用いた治療にも関与できるような議論があっても良い。
- 高度な個人情報を取り扱うことになるのでセキュリティー対策を万全に公的機関に主導いただいておりますが、便利さや簡便さといったメリットが薄れているのではとの印象。規制緩和、民間委託など進められれば、患者本位・医療機関本位のサービス向上が図れるのではと期待します。
- 「保険で医療を受けている = 医療情報の提供を同意している」とこととみなして、オン資の薬剤情報や特定健診情報を医療機関、薬局で閲覧できるようになるとより安全で質の高い医療が提供できるようになるのではないか。

### (費用対効果)

- コストに見合った価値があるサービスであれば積極的に導入していきたい。・費用に関してかかりすぎている。
- まずはコスト負担、現実的に導入したくても費用が問題で導入できない企業は多くあると思う。
- 様々な会社が、それぞれのサービスを展開することで、患者様が用いるアプリやサービスに個々に対応しなければならず、薬局で導入やサービス加入するものが増えてコスト的にも業務的にも負担になってきている。
- ICTの活用は今後の薬局経営に不可欠であり、10年～15年先の薬局の運営基盤に対する投資と捉えている。

# 調査内容

---

# 調査内容

## －調査概要－

### ■ 目的

・ 電子処方箋等への対応状況や計画、普及に向けた課題を把握すること

■ 対象：正会員 協会担当者宛に連絡 1社1回答 ※グループで1回答でも可

■ 方法：WEB フォーム：<https://forms.gle/AGX5Q5wTaudscump7>

■ 内容：全 25 問

問1 現状、問2 方針・計画、問3 課題と期待、問4 ICT 活用した各種サービス

■ 回答期日：3月7日～3月31日

■ 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会 デジタル推進委員会

### 【アンケートポリシー】

調査に関して、回答フォームの作成、データ集計等は外部に委託しており、当協会と委託者は秘密保持契約を締結しています。受託者は回答会社名や回答者等、個社や個人の情報を削除したデータを当協会事務局へ提供し、調査担当委員会にて分析を行います。データ集計、分析、報告書の作成、情報発信の過程において、ご回答いただいた個社及び回答者の情報が当協会内外に漏れることはありません。

## －電子処方箋等に関する調査内容－

問 1. 回答時点における貴社の電子処方箋等への対応状況についてお伺いします。

問 1-1. 本回答の対象となる貴社もしくは薬局グループが管轄する薬局数を教えてください。（半角整数 単位：薬局）例：123

●●●

問 1-2. オンライン資格確認システム（以下、「オン資」）が稼働している薬局数を教えてください。（半角整数 単位：薬局）例：123

●●●

問 1-3. HPKI カードを取得した薬剤師が 1 人以上配属している薬局数を教えてください。（半角整数 単位：薬局）例：123

●●●

問 1-4. HPKI カードを取得した薬剤師の総人数を教えてください。（半角整数 単位：人）例：123

●●●●

問 1-5. 電子処方箋に対応するためのレセコン等のシステム改修を完了している薬局数を教えてください。（半角整数 対応：薬局）例：123

●●●

問 1-6. 「電子処方箋の運用開始日」の登録をしている薬局数を教えてください。（半角整数 単位：薬局）例：123

※「電子処方箋の運用開始日」とは、電子処方箋の導入に必要なパソコンの設定、業務上の操作確認、電子署名の対応準備等が完了し、電子処方箋による調剤が可能となる日を指しています。

●●●

問 1-7. 実際に「電子処方箋が原本」の受付実績がある薬局数を教えてください。（半角整数 単位：薬局）例：123

●●●

問 1-8. 電子処方箋のモデル事業に参画している薬局数を教えてください。（半角整数 単位：薬局）例：12

※モデル事業は山形県酒田地域、福島県須賀川地域、千葉県旭地域、広島県安佐地域の4地域において2022年10月より開始されています。

●●

問 1-9. 電子処方箋に係る薬局現場での好事例やポジティブなエピソードがあれば教えてください。薬剤師の職能発揮や医療機関、患者とのやり取り等、内容は問いません。（任意回答 フリーコメント）

問 2. 回答時点における電子処方箋に係る会社方針や計画についてお伺いします。

問 2-1. 将来的にどの程度の薬局において電子処方箋対応をしていく計画なのか貴社の方針に一番近いものを選択ください。

ほぼ全薬局（9割以上）  7割以上  5割以上  5割未満

地域の医療機関や薬局等の導入状況に応じて検討する

わからない

問 2-2. 問 2-1 で回答した電子処方箋対応整備計画のスピード感について貴社の方針に一番近いものを選択ください。

2023年3月末までに計画しているほぼすべての薬局で運用を開始する（開始した）

2023年9月末までに順次運用を開始する

2024年3月末までに順次運用を開始する

2025年3月末までに順次運用を開始する

計画している全ての薬局で運用を開始するのは2025年4月以降となる

地域の医療機関や薬局等の導入状況に応じて検討する

わからない

# 調査内容

**問 2-3. 回答時点での導入状況及び計画について可能な範囲で詳細を教えてください。(任意回答 フリーコメント)**

例：周囲の医療機関の導入状況を見つつ、且つ、HPKI カードが薬剤師に届いた施設から順次運用を開始する予定。なお、現時点では、〇〇県、〇〇県を優先する方針。現在は〇〇薬局で導入済み、今後の計画は 2023 年 3 月中に〇〇薬局、それ以降、月に〇〇薬局導入。

**問 2-4. 電子処方箋に係る実施施策について教えてください。(複数回答可)**

- 応需医療機関の意向を伺う
- 患者等に電子処方箋について説明、発信を行う
- 患者等にオンライン服薬指導について説明、発信を行う
- マニュアル、手順書等の改定を行う
- 従業員に説明又は研修を行う
- 電子処方箋に関する好事例等を社内共有
- 特になし
- その他 (フリーコメント)

**問 2-5. 問 2-4 で「応需医療機関の意向を伺う」を選択された方は、電子処方箋発行の予定、意向がある医療機関のおおよそのパーセントを教えてください。把握している限りでかまいません。(半角整数 単位：%) 例：10%**

●●

**問 3. オン資、及び電子処方箋に係る課題や期待、要望についてお伺いします。**

**問 3-1. オン資、及び電子処方箋の対応を開始するうえでの課題を教えてください。(最大 5 つまで選択可)**

- 導入・運用コスト (システム、HPKI カード等)
- システム改修及び設置作業
- HPKI カードの申請と運用
- 導入に係る申請等の手続き
- 薬局の受付等のスペース
- 医療機関の意向
- 医療機関との連携
- システム上の運用検証
- 患者への情報周知及び理解
- 患者のマイナ保険証の持参率向上
- 薬局業務フローの変更、複雑化
- システム、ネットワーク障害時の対応
- サイバーセキュリティ対策
- 情報不足
- 特になし

**問 3-2. 問 3-1 の選択肢以外に課題があれば具体的に教えてください。(任意回答 フリーコメント)**

例：普及の過渡期は業務が複雑化する。逆に印刷が増える。電子処方箋データのレセコンへの取り込み精度が 100%にならない。

**問 3-3. オン資、及び電子処方箋に関して期待していることを教えてください。(最大 5 つまで選択可)**

- 入力作業等、業務の効率化
- 入力ミスが減ることでの安全性向上
- 重複・併用禁忌チェックによる安全性向上
- 薬局で得られる情報が増えることによるサービスの質向上
- 処方箋の保管に係る負担軽減
- 行政指導時の対応に係る負担軽減
- 医療機関との情報連携の質向上
- 医療機関との情報連携の効率化
- オンライン診療・服薬指導の利便性向上
- 在宅医療における電子処方箋の活用
- リフィル処方箋における利便性向上
- 患者自身が把握できる情報の拡充
- 患者の待ち時間短縮等の利便性向上
- 先行対応による薬局サービスにおける差別化
- 特になし

**問 3-4. 問 3-3 の選択肢以外に期待していることがあれば具体的に教えてください。また、オン資、及び電子処方箋に係る要望があれば教えてください。(任意回答 フリーコメント)**

例：標準用法マスタを充実させてその使用を徹底させるような施策が必要。過渡期は業務が複雑化し運用コストもかかることから速やかに普及するよう強い政策に期待する。

**問 4. ICT を活用した各種サービスの導入状況についてお伺いします。**

**問 4-1. e 薬 Link® 対応の電子版お薬手帳の機能があるシステムを導入している薬局数を教えてください。(半角整数 単位：薬局) 例：123**

●●●

**問 4-2. マイナポータル連携ができる電子版お薬手帳を導入している薬局数を教えてください。(半角整数 単位：薬局) 例：123**

●●●

**問 4-3. 服用期間中フォローアップの機能 (チャット機能等) があるシステムを導入している薬局数を教えてください。(半角整数 単位：薬局) 例：123**

●●●

# 調査内容

問 4-4. 処方箋画像送信機能があるサービスを導入している薬局数を教えてください。(半角整数 単位：薬局) 例：123

●●●

問 4-5. オンライン服薬指導（音声のみは除く）の機能があるシステムを導入している薬局数を教えてください。(半角整数 単位：薬局) 例：123

●●●

問 4-6. オンライン診療とオンライン服薬指導とが連動されたサービス（Pharms、curon、SOKUYAKU、LINE ドクター等）を導入している薬局数を教えてください。(半角整数 単位：薬局) 例：123

●●●

問 4-7. 今後の ICT を活用したサービス拡充についてお考え、ご意見等があれば教えてください。(任意回答 フリーコメント)



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会